会議の概要（議事録）

会議の名称	（番号） 1-38	令和５年度第１回　墨田区図書館運営協議会	
開催日時	令和５年７月３０日（日）　午前１０時から１２時まで		
開催場所	墨田区立ひきふね図書館５階会議室		
出席者数	【委　員】１０名 日向 良和（会長）、今井 福司（副会長）、松塚 智加子、藤山 光子、 齊藤 宮子、原 平充、森脇 直之、大津山 浩美、小島 光洋、牧野 雄二 【事務局】６名 ひきふね図書館長、ひきふね図書館次長、ひきふね図書館担当職員、 緑図書館長、立花図書館長、八広図書館長		
会議の公開（傍聴）	公開(傍聴できる)　部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	傍聴者数	２人
議事	１　令和４年度図書館事業の実績報告及び利用者アンケートの結果報告 ２　墨田区電子書籍サービスについて ３　その他		
配付資料	・次第 ・資料１　図書館事業実績推移 ・資料２　令和４年度墨田区立図書館事業概要 ・資料３　墨田区立図書館　利用者アンケート結果（概要） ・資料４　実施した主なイベント・展示等 ・資料５　電子書籍の統計について		
会議概要	議事１　・令和５年度墨田区立図書館事業概要、実績等に関する質疑（p.1-2） ・利用者アンケート結果に関する質疑（p.2-9） 議事２　・墨田区電子書籍サービスについての質疑（p.9-12） 議事３　・実施した主なイベント・展示等の報告（p.12） ・「りんごの棚」の設置について（p.12） ・今後の予定等（p.12）		
所管課	ひきふね図書館（電話：5655-2350）		

議事第１

令和４年度図書館事業の実績報告及び利用者アンケートの結果報告

事務局　資料１「図書館事業実績推移」

資料２「令和４年度墨田区立図書館事業概要」について説明

小島委員　来館者数はどのように計測されているのか。

事務局　各図書館に設置されているブックディテクションシステムのセンサーにより、計測されている。

原委員　来館者数に占める貸出数の割合が５８％（平成３０年度は４４％）ということだが、これは来館者数のうち、資料の貸し出しを目的としていない人が減っているという理解が正しそうである。来館者数が平成３０年に比べて下がっている一方、貸出者数は増えている。本を借りるために来る人の割合が増えていて、それ以外の学習であるとか、場所を使うといったための目的の人が減っているように見受けられる。その理解はあっているか。

事務局　その理解でいいと思う。後ほど説明させていただく利用者アンケートで、図書館に来館する目的の項目があるが、これまで上位に入っていなかった「調べものの調査」が５位に入っており、利用目的に変化が見られる。

原委員　貸し出しを目的としない人が減っているということに関しては、図書館としてはどのように捉えているのか。

事務局　新聞や雑誌など閲覧のみのために使用していた方が、コロナ禍ということで、来館を控えるような生活の変化があったのかもしれないが、そういった点までは分析できていない。

小島委員　令和２・３年度は、閲覧席が減少し、ひきふね図書館に関して言えば、閉館時間が２０時で１時間短くなった。一概にコロナの前の条件と比較するのは難しいと思うので今年度の結果を踏まえて見ていかないといけないのではないか。

原委員　視聴覚資料の貸出点数が減っていることについて、例えばインターネット上での動画視聴が影響しているかなど、図書館としてはどのように考えているか。

事務局　先日、指定管理館に伺った話で、職場体験に来た中高生に尋ねたところ、音楽は図書館で借りるのではなく、スマートフォンなどを通して聞くという話が多かったとのこと。推測になるが、インターネット上のサービスも影響していると考えている。

牧野委員　資料１で、コミュニティ会館図書室での登録者数と資料総数が少しずつ減ってきているが、これはどういった理由が考えられるか。特に資料総数が少しずつ減ってきているようにみえる。

事務局　コミュニティ会館図書室へ移動する資料よりも、図書館へ移動する資料の方が多いためである。墨田区は返却館方式を採用していて、所蔵館が移動する資料も多いので、資料数は図書館とコミュニティ会館図書室の総数で見ていただくのがよい。

日向会長　比較的大きめの図書館が整備されてくるにしたがって、小さいところが近

くにあるけれど、だんだん利用が減り、どうせだったら大きな図書館に行っていろいろ選べたほうがいいという感覚があるのではないかと思う。これは住んでいる方々でぜひ話していただければと思う。そんな感想を持った。

齊藤委員　視聴覚資料について、今ＣＤやＤＶＤの再生機器を持っている人は、すごく減ってしまっているのではないか。借りても再生できない状況になっていて、おそらくそれが先ほどの中高生のようにインターネットで済ませることがほとんどということになっている。今はパソコンも、ＣＤやＤＶＤの再生機器が外付けになっていたりするので、そういうことも踏まえて視聴覚資料をどのように揃えていくかを考えたほうがよい。その分、今回始まった電子書籍に力を注いでいただくのもよいのではないかと思う。

森脇委員　来館者数がセンサーを通った人の数を集計しているとのことだが、予約資料の受け取りのみに来館される方も数に入っているということであれば、来館者数自体は減っているが、１人当たり貸出点数が増えているので、それはよい傾向である。

事務局　ただし、今まで図書館へ閲覧のみを目的に来ていた方たちが減っている事実がある。中には、何かしら本を探していても、貸し出しに結びつかなかった方もいるかもしれない。良し悪しの話ではなく、図書館に求めるものが、利用者の中で変わってきているのではないかとこの数値を見て感じた。

森脇委員　昨年まではコロナ禍の影響もあったので今年度の数値がコロナ禍以前と比較可能な数値になる。来館者数、貸出点数も増えていて皆さん利用していただいているということでよいのではないか。

事務局　閲覧席数の変化もあるので、今年度の数値が出たら改めて分析したい。

日向会長　次に利用者アンケートの結果報告を事務局より行う。

事務局　資料３「墨田区立図書館　利用者アンケート結果（概要）」について説明

藤山委員　問７－１の選択肢の２番目に「書架の配置」という項目があるが、これは「見にくい」とか、或いは何か読みたいものを探したときに「探しづらい」とか、いろいろ理由があると思うがどのようなことになるのか。

事務局　具体的な内容は回答いただいていない。藤山委員がおっしゃられているように見にくいとか、順序だてて並んでいない、高いところに置いてあって見づらいなどのご意見になるのではないかと考えている。

藤山委員　図書館が推測して改善していくということか。

事務局　各館でどういったご意見があったかアンケートの結果をこれからフィードバックしていくので、その後それぞれの館で対応を考えていく。

日向会長　こういう聞き方をすると本の並びがわかりにくいという意見が多い。あとは本棚が多すぎるとか。これは座席を増やしてほしいという意見と併せての話で、座席を増やして欲しいから本棚を減らしてほしいなど。

　本の並びについては、サインなどでいろいろ工夫はするけれど、どうしても建物の形や広さの関係で難しくなってしまう部分もある。ぜひそこは日々改善して

ほしい。

原委員　問６−１１のイベント講座を知った方法の項目で、知人、友人、家族からの人伝えの紹介で知ったという選択肢はあったか。

事務局　選択肢はここに載せているのが全てである。

原委員　イベントを実施してアンケートを取ると、何割かの方は人伝えに聞いたという方がいらっしゃるので選択肢にあるとよい。

大津山委員　問９の八広図書館への「利用者のマナーが悪い。」という意見があるが、どういう部分か。

事務局　図書館は公共施設なので様々な方が来館している。過敏な方は、例えば閲覧席で、他利用者と距離を置きたいために、あえて隣の席に荷物を置いて距離を保とうとするとか、パソコンを使う際の打鍵の音がするので注意してほしいと言われることがある。また、トイレに関することも多く、中にはティッシュを使って体をふいたりする人もいる。トイレットペーパーも人によって使う量が違うなどにより、どの館でもトイレが詰まって水が溢れるといったことがある。場合によっては、利用者同士でのトラブルになることもある。本来であれば、一定のマナーを守って気持ちよく使っていただきたいが、一人一人異なる部分があるのでそういったトラブルは尽きないという状況である。

日向会長　トイレの問題はどこも大変である。使い方というのはなかなか全員が全員出来るものではないので難しい。できることとしては、本当に清掃や見回りを頻繁にするくらい。特定の館の特定のトイレにこだわったりする人もいるので、そういうトラブルがあった場所は重点的に１〜２ヶ月様子を見ていくなどするしかない。犯罪が起こりやすい場所でもあるので、注意して見ておく必要がある。

小島委員　今回のアンケート用紙について、私自身、どこの館を対象に書けばいいのかわかりづらかった。例えば、ここの図書館に関してお答えください、と書いてあると利用者の属性とその図書館に関する回答が見やすくなると思う。

　それに関連して、問５で「区内在住」と「隣接区在住」の数値が、各図書館で非常にばらつきが大きい。これには二つの問題がある。全体的に区内在住が多いのか、隣接区在住が多いのか。全体の登録者数に対しての割合を見ないとこのアンケートの回答が果たして利用者を代表しているのかということの判断ができない。これだけばらつきがあれば、むしろ全体の結果よりもそれぞれの図書館ごとの結果の方が意味が大きいのではないか。次回以降、アンケートの作り方を考えていただけるとよい。

事務局　問１で、主に利用する図書館はどこですかという質問がある。今おっしゃられたように、どの図書館についてお答えくださいなど、一言入れられるような工夫はしていきたい。

小島委員　例えば、そのアンケートを受け取った図書館についてお答えくださいという方が、印象に基づく回答を求めていることもあるのでよいと思った。

原委員　このアンケートを踏まえて今後どのような活動に取り組まれるのかお伺い

したい。問６−９と６−１０がイベントについての質問になっているが、まず参加したことがないというのが大体全体で６～７割程度である。一方、参加すると、「ふつう」以上の評価が３６％ぐらいなので、参加すると満足いただけるというふうにアンケート結果を見ている。

次に、問７−２の清掃などを見ると、先ほどトイレの話もあったが、多くの方はほとんど問題ないと思っている。私も緑図書館をよく使っていて、建物は少し古いけれど非常に管理が行き届いているなと思っている。

一方、ネットプロモータースコア（以下ＮＰＳ）を見ると、緑図書館はそんなに高い数字にはなっていない。このＮＰＳというのは、第三者へおすすめするかしないかを表しているので、たまたま出会ったポジティブな印象があると強く勧めたくなり、たまたま出会ったネガティブな印象があるとお勧めしたくなくなるという傾向がある。

図書館として無難に快適であっても、何か強く推奨するものがないと真ん中ぐらいになってしまい、ＮＰＳが上がらないということになるのではないかとアンケートを見て思った。

その中でＮＰＳの高い八広図書館への意見で「イベントが面白い。」とあり、すなわちイベントに６割の人は来てないけれど、もしイベントに参加してもらえるならば、大抵ポジティブな印象があって、ポジティブな印象があるとベースのところはちゃんと管理されているので、推奨者が増え、そこからさらに利用が増えてくるのではないかとアンケート全体から考えた。

この理解があっているかどうか、図書館としてはこのことを踏まえてどのように次の行動に活かそうとしているのかをお伺いしたい。

事務局　原委員から今あったように、イベントなどですごくいい印象を持っていただいて、八広図書館は数値が伸びていると感じている。

イベントに「参加したことがない」という項目と、問６−１１で「実施していることを知らない」という項目にあるように、中には実施していることを知らない人もいる。本当に興味がなくて参加していない方もいると思うが、実施していることを知らない方もいるので、できる限り幅広く、図書館を知ってもらう工夫をして、読書に関しての興味を引いていきたい。

八広図書館は、図書館だけではなくて他の団体の協力をいただきながら、工夫してイベントを実施していると聞いている。ひきふね図書館としても、できる限り幅広い世代にヒットするような工夫が必要であると考えている。

先ほどの視聴覚資料と同様に、図書に関しても、電子書籍という形態も入ってきているので、ＰＲ方法や図書の購入方法・内容等も含め全体的に見直していかなければならない時期なのではと感じている。

森脇委員　問６−１で、去年まで入っていた「コンピュータ関係」がなくなって４位に「文学（海外）」が入ったという説明があった。それに関連して、問８−２「電子書籍で主に読んでいる図書」の５位に「コンピュータ関係」が入っている。これは電

子書籍で読むことができるから、この６－１の充実してほしいものから減ったという認識でよいか。

事務局　このアンケートを実施しているのが今年２～３月頃である。問８-２「電子書籍で主に読んでいる図書」の「コンピュータ関係」は、ご自身で電子書籍を購入して読んでいる方が多いということになる。一般的な電子書籍の方が、情報が新しい場合もあるので、図書館に対して、本という形での形態を求めてきていないのかもしれない。項目間の関係性は何とも言えないので、ご自身で電子書籍を購入してコンピュータ関係の図書を読む方が徐々に増えてきているのかもしれない。

森脇委員　それが正しいとすれば、問６-１で４位に入ってきた「文学（海外）」は、電子書籍がないから要望されているということになるのでそちらの充実をするとよい。

事務局　おっしゃったように、電子書籍では購入できない資料について、紙媒体として力を入れて購入していくということも考えていかないといけない。

森脇委員　イベントを「実施していることを知らない人」について、全体として２０％もいかないというのはそんなに大きな数値ではないと思う。０％はまず無理だと思うので、割とよいのではないかと感じている。これをさらに減らすとすると、逆にどうするのか。

事務局　例えば、今はまだ試みていないが、人の流れの多い動線になるような、例えば駅で広報を行うなど。そういう場所にポスターを貼ってもらえる可能性があるのかとか、今まで行っていない場所での広報の仕方も検討の余地があると思う。この２０％という数字が多いのか少ないのかということは、他と比較してはいないので、今までやっていなかったことを試みるのは一つの方法かと思う。

森脇委員　先ほど原委員の話からもあったように、八広図書館の満足度が高い。八広は「実施していることを知らない人」が平均よりも半分以下で、問６－９のイベントに参加したことがない人も半分以下である。八広を重点的に分析したら、改善に繋がるのではないか。

事務局　八広図書館は、おそらくアンケートの回答者が、普段よく来てくださっている方が多いので、こういう数値になっているのではないかと思う。ひきふねはイベントを「実施していることを知らない」が２４％と他より多いので、このことを重点的にということではないが、そういう人も実際数値としてはいるということで工夫はしたい。

齊藤委員　イベントの件について、点訳きつつきの方で、点字のワークショップを４館で実施させていただいたが、それぞれの館でそれぞれ状況が違った。八広はスペース的にとても恵まれていて、他の館では「イベントをやるので今日は閲覧室が使えません」などそういう制限なしで、広いところで、とても自由にゆったりできる。それをそのまま立花に持ってきてできるかというと難しいということがある。単に八広かどうかではなく、各図書館の限られたスペースでどうするかというのは指定管理者の方もいろいろと考えていらっしゃると思うが、イベントに関しては開催場

所などのことも考えて進めていかないと難しい。当日職員さんが一生懸命勧誘してくださったりするなど、そのときの職員さんの熱心さというと語弊があるが、全部お任せになってしまうか、いろいろと関わっていただけるかでも違いがあるというのは実際に行った側からの感想である。

牧野委員　問１０の回答にある「本の返却ポストを駅やスーパーに設置してほしい。」は興味深いなと思った。これは利用者向けの調査だと思うが、利用していない人、利用できていない人のニーズにもこうした意見はあるのではないかと思う。仕事や学業が忙しい方が、通勤・通学など生活の動線の中で図書館サービスを受けられるのはよい。他の自治体の図書館だと、返却だけではなく、駅の近くで予約した本が借りられるようなサービスもある。広報の話でポスターを駅に貼るなど考えられている話もあったが、可能であれば、図書館のサービスなどの情報を生活の中でもっと目にしやすくなるとよい。また、これも可能であれば、そういった非利用者のニーズについてももっと考えるために、今後非利用者向けの調査をできるとよいかもしれない。

先日始まった電子書籍サービスはいつでもどこでもサービスを受けられるものだが、やはりコンテンツの量などを考えると、現在図書館で提供できるのは紙の蔵書が圧倒的に多いので、紙媒体の資料についてももっと利用しやすくなるサービスはあるとよい。

原委員　イベントを開催している側から、問６－１１で「実施していることを知らない」が１～２割というのは、あくまでも所感ではあるが、少ないという感覚を持っている。すなわち、推測するに、８割が知っているというよりは、知っている人がアンケートに答えているのではないか。たまたまイベントに来た人にアンケート用紙を配った場合、当然みんなイベントのことを知っているし、イベントに来る人はおよそ満足されるので満足度が上がる。そういう意味で、知っている人がアンケートに答えている可能性が、根拠はないがありえると思ったので、配布方法や答えていない人へのサービスも考えたほうがいいかもしれないという仮説を述べさせていただく。

小島委員　論文で言えば、配布方法、回収方法を必ず書かなければいけないということと同じである。

私からの質問は、問６－１「充実や改善したほうがよいと思う書架」に関してで、いわゆる若年層に向けての資料に対する要望が平均的に高いということについてである。

まず「中学生向け（ティーンズ）の本」とあるが、中学生とティーンズというのは、同じ集団ではないので、回答をする際に回答者が判断に迷うということが一つ。それから「こども向けの本」と「絵本・紙芝居」もどちらに該当するか迷うところなので選択肢を整理しておきたいというのが一つ。

また、気になっているのはその小学生向け・中学生向けの本というところで、これは小・中学校の図書室との連携で解決・改善する方法はないかということである。

それから、子供がどのような本・印刷物を手にしてほしいかということに関して議論が少ない中で、図書館の子ども向けコーナーをどう活用していくかということがある。充実・改善したほうがいいというところに関しては、小さいうちから、広く絵本まで含めて書籍に親しむという態度の育成、醸成という点で考えておかれるとよい。おそらくこれは熱心な家庭とそうでない家庭と相当な温度差があると感じている。そこは図書館の今後の機能、使命としても考えておかれるとよい。

日向会長　子どもの本の要求が多いということだが、ひきふねは数的には結構あると私は感じている。私が見たことがある図書館は、立花とひきふねで、立花は少なすぎる。狭くて、これ以上置けない。本当に全部子ども図書館にしない限りは、スペース的に厳しいと思うが、一方、置いてある本のニーズについては、例えば古臭い本が多いとか、今の子供たちにあまり受けないといったことがあるかもしれないので、分析が必要かと思う。

また、家庭の温度差というと、今子育てをしている家庭で、雑誌とか新聞も含めて、紙の本を買おうという点ではかなり低い。だから読書を推進したい、本を読ませたいといった場合には、タブレットなどで電子書籍を読ませたりするほうが多いという意味で、紙の本を勧めるのは難しい。全体的に見るとそういう感じになる。ただ、図書館に来れば、いろんな本が選べるので、その中で子どもに読ませたい本が見つからない、どんな本がいいかがわからないからアドバイスしてほしい、「うちの子は一歳で、男の子で、こういう本を読ませたい」というような相談が多いというのはよく聞くので、そういったニーズとのマッチングはあるのではないか。

今井副会長　問６－１を見ていたときに思ったのは、充実とか改善した方がいいと回答するということは、この本がなかった、この雑誌がなかったという場面で初めて出てくるものなので、むしろこの４位の「こども向けの本（４３件)」というのは、本を探しにきたけれどなかったから充実してほしいと答えているのではないかという気がする。だから例えば、ひきふねだと充実しているので、もうこれで大丈夫だと思われるかもしれないし、例えばＤＶＤがひきふねで多いのは、これを見たくてきたけれどなかったので充実してくださいという積極的な回答になると思う。例えば、問６－１を今後どうするかということでは、何を入れたらよろしいと思いますかと具体的なタイトルを数点挙げてもらえると、これは図書館では実は入れられない本だからもう対応しようがないとか、或いは見落としていたので購入したほうがいいということが見えるかもしれないので、何かサブの質問を作って、少し深く聞いていただくのがよいのではないかと感じた。

日向会長　私の方で気になったのが、子どもの本のニーズが高いのと、子ども向けイベントに参加したことがない割合が両方高い点である。今の子ども向けのイベントの内容や方法は、一般の方のニーズに合っていないのではないかと感じている。読み聞かせ会などをやるけれど、そのやり方がいいのか悪いのか、例えば時間が長過ぎるとか、あとよくある話で常連の子どもたちに新しい子が入っていきにくいとか。そこは気になっている。

大人向けイベントに参加したことがないというのは、ニーズが多様化しているので、これはもう普通だったら図書館でこんなイベントやらないみたいなものもいろいろやってみたりする。一方、子ども向けイベントについては、やり方や紹介の仕方が、今までの子ども向けの読書活動からするとこのイベントって関係するのかどうかわからないというようなことも結構人気があったりする。例えば、荒川区だとものづくりワークショップみたいなことを子ども向けにやっていて、そこで資料も提供する。小さなお子さんが何か作ってみようとか実験してみようという気になる。もうちょっとイベントのやり方とか内容を多様化してもいいと思っている。

それからＣＤはだんだん作られなくなってきていて、配信限定のインターネットでしか聞けないものも増えている。ＤＶＤもだんだん映画会社も作れなくなっていて、もしかしたら動画配信サービスを図書館で見れないかというニーズになってくるかもしれない。そうなったらどうするかというのはまた今後考える話である。動画配信サービスは個々人で契約する形になっているので、図書館は契約できない。図書館はそういう契約ができない人にどうするかということを考えていく必要があるのではないかと思っている。

事務局　問６−１０については、大人も含めて回答をしている。そして、この中の５８％が５０代以上の方である。例えば、ここの回答の取り方も、例えば「１８歳までの方やその保護者が答えてください」とか、そういう形にしないときちんとした数字が出てこないかと思うので次回工夫させていただきたい。

子供向けイベントについては、実際のところ開催は多い。ただ、おはなし会などは、墨田区のご家庭は保育園に通ってらっしゃる方が多く、家庭で保育をされている方は、育児休業の１～２年目の方など少数なので、そうすると参加人数は多くて１０組ぐらいになる。

あと、子ども向けイベントは親が一緒でないと参加できないということもあるので、子どもが行きたいと思っても親の都合で難しい場合もあるのではと思っている。また、実際には人数制限をすることもあり、お断りしているところもある。小さい時から本に親しむということでは、ここに図書館があるんだということを知っていただきたいと思っている。

先ほど小島委員の方からお話があった、各家庭でどれだけ本を買っているかと言う話では、日向先生がおっしゃるように、墨田区では、本を購入する家庭は少ないのではないかと想定している。なので、今回電子書籍を導入したので、学校の端末で見られるようにするということを検討し、１０月から開始する予定である。

また、物価高騰の影響に対する支援策で、子育て世帯に対し、１万円の図書券を教育長のメッセージとともに配布するということを、読書活動推進の一環として行った。未就学児に対しては、おむつなどにも利用できる形で配布しているが、児童生徒に関しては、あえて図書券を配布させていただいた。情報としてお伝えさせていただく。

日向会長　ぜひいろんなアイディアを出して、まず子どもたちに楽しんでもらう、来

たいと思ってもらうということが重要で、そんな場所を作っていただきたい。
　都留市では今月市内から唯一残っていた書店がなくなってしまうので図書券が使えなくなるなんてこともある。紙の本は、金銭面以外にも場所をとる、後始末が大変という点で電子を選ぶということもある。

議事第２
**　墨田区電子書籍サービスについて**
事務局　資料５「電子書籍の統計について」に基づき、利用状況を説明
小島委員　まず、貸出件数で、いわゆる土日、休日に貸出件数が多いという印象を持ったがそういう理解でよろしいか。もう一つ、６ページのデバイス別貸出件数で、デバイス種別としてＯＳ名が書いているが、デバイス別ということであれば、スマホ、タブレット、ＰＣと分けて書いておくとよい。
日向会長　コンピュータの方で統計的に接続されたＯＳ名しか取得できないため、ＭＡＣやＷｉｎｄｏｗｓのようにＰＣと紐づけられているとよいが、ｉＯＳやＡｎｄｒｏｉｄはスマホかタブレットかは推測するしかない。調査するならば次回「あなたは主に電子書籍サービスをどういった端末で利用していますか」のような質問を入れるしかない。逆に言えば、項目名を「デバイス別」ではなく、「ＯＳ別」とするのがよい。
　今年の１０月からＧＩＧＡ端末で児童・生徒へＩＤ・パスワードを配布するとのことだが、今は端末から図書館ホームページや電子書籍は閲覧できるのか。
事務局　現状も端末の画面上に図書館ホームページに繋がるアイコンがあり、すでに図書館の貸出券を個人で登録して持っている児童・生徒は、そのＩＤで閲覧することができる。そこから閲覧された数字が、年代別貸出の「小学生」268 件になっていると思われる。中学生は個人の携帯電話からも見ているかもしれない。
　まだ貸出券を持っていない児童・生徒にも利用していただきたいので、１０月から全校児童・生徒へ新たにＩＤ・パスワードを付与する。すでに登録を行っている児童・生徒はこれまでのＩＤと新たに付与するＩＤで、合計４冊まで同時に貸出を受けることができるようになる。そこは利用していただきたいという意味で制限をかけない方法を取っている。
日向会長　ついでに感想として貸出券も配布すればよいと思ったが、これは学校とも関係することなので図書館だけで決められないということはわかります。
小島委員　私も同じことを考えていた。図書館利用カードを作ってくださいということであれば今度は実際図書館に足を運ぶ。そのことによって図書館の利用の仕方を覚える。そうすると、利用者の数が増えるのではないか。
日向会長　電子書籍の滑り出しとしてはよいのではないか。せっかく導入したのであれば利用していただけるよう考えていただきたい。意外と幅広い年齢層の方に利用されている印象である。今は６０代の方もスマートフォンを持っていて、高齢者だから使わないということもだんだん無くなってくる。さすがに７０代は難

しいと思うが、６０代、特に前半の方は問題なく機器を扱っていると感じている。

今後は、何がよく借りられているか、年代別の違いがどうか、先ほども話にあった、紙の本がなくて電子を借りる、図書館にない本を電子で借りるなどがあるのか。また、図書館で置いてもすぐに読まれなくなってしまうだろう本を電子で入れてみるなど、いろんな購入の仕方があると思うので検討していただきたい。

森脇委員　住所別貸出数で、図書館の近くの方が多く借りられているということだが、普通に考えると、電子書籍の有無に関わらず、近くに住んでいる人が図書館を利用するので、たぶんまだこの時点では知らない人が多くて、図書館に行く人だけが知っていたからこういう利用状況になっていると考えられる。

事務局　もう少し幅広い場所から利用されるかと思っていたがこういった結果になった。６月１日の区報に記事を掲載したが、また改めて大きな記事で広報していくことを検討している。図書館に近い方以外にも周知できる方法を考えていきたい。

森脇委員　今は図書館の入り口などに何か掲示しているか。

事務局　ポスターやサイネージを利用しての掲示を行っている。もう少し目に触れるよう工夫していきたい。

森脇委員　私は八広に本だけ借りに行くことが多いが、まだ見た記憶がないので何かあるとよい。

日向会長　電子書籍を導入した時の特性で、他の自治体でも図書館の近くの人がよく利用する。なぜかというと、図書館から離れた場所の人は読書に興味がないので、電子書籍サービスを始めても、そもそも本を読む気がなく、サービスを利用しない。今までは図書館に来てもらうだけだったので、どうしても近くの人が読書するようになっていたが、今後は住んでいる場所に関わらず、多様な本を揃えることで遠くに離れた人たちにもちょっと読んでみようと思ってもらう機会が増えると考えるのが基本かと思う。このあたりに住んでいる人は、日常的にひきふね図書館に来ているので、「電子図書館ができたんだ、使ってみよう」となるが、日常的に来ない人は読書する気がないので、「ふ～ん」で終わってしまうというのはある。

ＰＲの方法もそうで、１冊借りてみませんかみたいな体験会みたいなものをちょっと離れたところでやってみるといいのではないか。

今井副会長　ご存知だと思うが、電子図書館を利用するときは、ＩＤ・パスワードを入力しなければいけない。そもそも今スタート時点ですから、当然図書館の近くの方が貸出券を持っているので、離れている地域の方は貸出券を作るところから始めなければいけないので、体験会を実施する場合には、その場で登録して、後日カードを受け取れるようにするなど、利用登録から始めなければいけないというところも気をつけておいたほうがよい。

森脇委員　図書館の近くにいる人のほうがよく図書館を利用するということだが、利用登録者の人数がそういった傾向にあるのか。

事務局　利用登録者数の分布は確認をしてみないとわからないが、日常的、定期的な

利用になると近い方のほうが多い。

森脇委員　アイディアとして、メールアドレスの登録をしている方がいるのであれば、それを使ってお知らせをするのはどうか。

事務局　メールの登録の際に利用目的を明示しているため、その範囲内でできることは工夫してやってみたい。例えば、予約資料が用意できた際の連絡メールなどに「電子書籍が始まりました」とちょっとした宣伝であれば加えることができるかもしれないので確認してみる。

小島委員　住所別の貸出件数について、これは赤の濃淡で示されている。これは単に貸出件数の数量で見ているため、その住所にどれだけの人口がいるかが反映されておらず、これだけで判断するのは非常に難しい。この色の薄いところは工場だったり商業地域だったりして、そもそも住宅地になっていないところがあるのではないかという点が一つ。それから、利用者アンケートの最後のところで、「本の返却ポストを駅やスーパーに設置して欲しい」というところと関係してくるが、墨田区の中で最も人が集まってくる錦糸町が、色が薄いということがある。錦糸町を利用する人にとって、今の図書館の配置というのは、非常に馴染みがないというか使いにくいということもあるのではないか。その点がいわゆる図書館サービスの拡充を検討する余地のあるところかと思う。

牧野委員　統計だけでなくて、電子書籍サービスの開始後に、利用者の声として、こういう本があって便利だったとか、こういう本が電子書籍であるとよいとか、問い合わせ、反応は何かあったか。もしあれば差し支えない範囲でどういったものかなど教えてほしい。

事務局　始まる前は、どんな本があるのか、どうやって使うのかという問い合わせがあったが、始まってからは特にない様子である。

　先日、学校の校長会で説明したところ、電子書籍の案内後すぐに図書館に登録をしてくださって「もう６冊読みました」とお声をいただくこともあった。また、墨田区には一定程度不登校の児童・生徒がいて、教室へ行くことができなくても、学校の中の一室に通えるように段階を踏むことがある。これからＧＩＧＡ端末で電子書籍が読めるようになったら、そのような子に対して、勉強が難しくても「これを読んでみない？」と声掛けができる、と学校側からも活用についてのお声があった。他にも、読み上げ機能があるので特別支援学級の子どもたちにも、まずは耳で聞いて、おもしろそうだということを体験してから文字を見ることもできますね、というお声もいただいた。電子書籍はこれからかなと期待している。

牧野委員　ニュースで不登校の子が増えていると見たことを思い出した。図書館の電子書籍を使ってできることがあるとわかって参考になった。

議事第３

その他

事務局　各図書館長より実施したイベント、展示、事業について報告

小島委員　資料４の参加人数について、「大人」と「子ども」で分けられているがどのように区分しているのか。

事務局　小学生以下を「子ども」、中学生以上は「大人」としている。

齊藤委員　昨年からお願いしていた「りんごの棚」について、障害者サービス担当から完成の報告を受けてうれしく思っている。ただし、児童書担当として障害のある子どもにどのようにサービスを提供するのかというところがわからなかった。

　また、イベントで「としょかんたんけんツアー」で発達障害の方が参加されると聞いて素晴らしいと思った。次回でよいので、どんな感じであったのか、参加された方がどのような感想を持たれたのかお聞かせいただきたい。

事務局　その他今年度から「民話を語ろう」という親子向けの読み聞かせや、海外の文学の要望が多いということでいえば、英語多読講座も再開している。

　今後の予定としては、９月３日にすみだ文化講座で関東大震災１００周年に関連して、復興建築をテーマに講座を、１１月４日に『本所おけら長屋』の作者の方をお招きしての読書週間の講演会を行う。また、１２月１７日にすみだ文化講座で勝海舟生誕２００年ということで、先日墨田区としても講演を行っていただいた玄孫の方に講演をお願いする。

　学校図書館との連携ということでは、小学校の学校図書館の放課後開放の実施について学校と検討を行っている途中である。読書活動推進の観点から図書館としても協力していく。学校の協力を得ながらモデル校を作り、一定期間検証して、来年度に活かしていくという取組みをする予定である。この放課後対策については、子どもの居場所ということで、今年度区議会の特別委員会が設置されているので、学校図書館の活用を含め、議論されていく予定となっている。

日向会長　以上で、令和５年度第１回墨田区図書館運営協議会を閉会する。